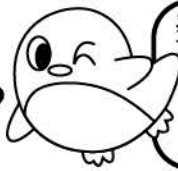


ペンギンレポート



発行所
市民フォーラム
〒183-8703
府中市宮西町2-24

逆転! 「屋根貸し」陳情

公共施設の屋上を民間事業者に貸し、太陽光パネルを設置し売電するという「固定価格買い取り制度」を積極的に活用した、いわゆる「屋根貸し」についての陳情が6月定例会に提出されました。私が委員を務める建設環境委員会で審議され、採決では可否同数となり委員長採決の結果、**不採択**となりましたが、**本会議**では、賛成多数により**採択**されました。(ネット録画配信中)

《委員会》

賛成 (市民フォーラム、ネット、
3名 公明党)


反対 (市政会、志高会)
4名



《本会議》

賛成 (市民フォーラム、ネット、
17名 公明党、共産党、友愛会)

反対 (市政会、
10名 志高会)

市がリスクと考えている20年という長期の賃貸に対する不安、また荷重に耐えられるかという建物強度の問題について、先進自治体では、**契約を最長20年で毎年の更新とし、建物強度に応じた設備を設置するなどの対応**をしています。

むしろ、**行政が開発途上にある太陽光パネルを独自に導入するほうが、財政面も含めリスク**があります。府中市には、**EMS (エネルギー・マネジメント・システム)***に取り組んでいる東芝、NECといった大企業もあり、**幅広く民間の力を活用することが重要**と考えます。(委員会での発言抜粋)

※EMS (エネルギー・マネジメント・システム) とは電力量を可視化し、節電のための機器制御、ソーラー等の再生可能エネルギー、蓄電、制御を行うシステム。

関戸橋の架け替え

架橋後70年以上を経過し、老朽化した関戸橋の架け替えを行います。架け替えの対象は、府中市から多摩市に向かう下流橋です。

河川に影響がない様、毎年11月から翌年5月までの期間だけ工事を行うので、完成まで15年かかる予定です。



パブリックビューイング

6月4日、フォーリス前でパブリックビューイングを実施しました。近隣商店の協力による焼き鳥やビールなどの販売もあり、多くの市民が集まりサッカー観戦を楽しみました。



ネット中継!

6月定例会から、本会議のインターネットによる生中継と録画配信(3営業日後)が始まりました。市議会がより身近になります。一般質問も録画配信されていますので、ぜひご覧ください。

<http://www.fuchu-city.stream.jfit.co.jp/>

小・中学校の耐震完了!

小学校、中学校の耐震補強工事が、今年度でやっと終了します。近隣他市では耐震化工事がすでに終了していますが、なぜか府中市の耐震化が遅れていました。平成24年4月の耐震化率順位は、東京都全体(島しょ部を含む)で59位。



山上みのる

府中市議会議員 会派：市民フォーラム/民主党東京都府中市支部政策委員

事務所所在地 〒183-0056
東京都府中市寿町3-9-18-102
TEL・FAX 042-366-3543

E-mail yamagami_229@nifty.com
URL <http://yamagami.a.la9.jp/>
郵便振替 00160-8-607854 (山上みのる後援会)

ご意見ご要望をお寄せ下さい。ご支援も宜しくお願ひします。

小学校・中学校の連携

一般質問①

小学校から中学校に進学する際に、中学校にうまく馴染むことができない、学習についていけないなど、いわゆる「中一ギャップ」が関心を集めるようになって、すでに10年以上経過しています。

この「中一ギャップ」を解消するため、義務教育9年間を見通した指導の必要性から、多くの自治体で小・中一貫教育、連携教育に取り組むようになりました。

府中市においても、平成23、24年度に小・中一貫教育のモデル事業も行ってきました。府中市がめざす小・中学校の連携について、以下質問いたします。

Q 一貫教育、連携教育の目的と効果は？

A ⇒ 目的は、9年間の学びと育ちをより一層充実させること。効果としては、互いを学ぶことによる小・中学校教員の指導力の向上と、学習指導、生活指導の両面においても、9年間継続した指導による成果が上がり、「中一ギャップ」の解消につながる。

Q 先進事例の評価は？

A ⇒ 中学校の不登校出現率の減少、学力調査の平均正答率の上昇、規範意識の向上、異年齢集団による自尊感情が高まったとの報告がある。

Q 今年度の予定と今後のスケジュール？

A ⇒ 今年度においては、中学校学区内の小学校の教員が当該中学校を訪問する日を設ける。その後、中学校の教員が小学校を訪問する機会を設け交流を進める。今後のスケジュールについては、地域の実情もあり、また連携が目的化されないためにも、慎重であるべきと考える。(スケジュールは示していただけませんでした)



私は、6年前に「開かれた学校づくり協議会」委員として、小・中一貫教育の議論に参加しました。一貫教育の検討を始めて、すでに6年、小学校に上がった子どもも卒業してしまいます。

この6年間、他市の状況も把握し、モデル校も実施し、府中市において、できる事、できない事、やらなくてはならない事を十分に検討されたはずです。これからは、確実に実践に移していく段階ではないでしょうか。スピード感を持って、意欲的に進めていただきたいと思います。(一般質問抜粋)

地域における子育て支援の充実

一般質問②

3月に「保育検討協議会」の報告があり、先ごろ、「今後の保育行政のあり方に関する基本方針」(案)が示されました。市立保育所のあり方として、地域における子育て支援が色濃く書かれたものになっています。府中市内の3歳未満児のうち約70%が在宅で過ごしている現状から見ましても、地域の子育て支援の充実が重要課題と認識しています。そこで、市立保育所のあり方とともに、地域における子育て支援の充実について、以下質問いたします。

Q 市立保育所が地域子育て支援の役割を担うのはなぜ、その背景、根拠は？

A ⇒ 子どもや子育て家庭を取り巻く環境の変化、保護者の養育の力の低下に伴う育児不安、悩みを抱える保護者の増加が背景。根拠としては、文部科学省が保育所保育指針の中で、保育所の役割として、地域子育て支援を明確に位置づけている。

Q これからの地域支援における市立保育所の役割、機能は？

A ⇒ 園庭開放や地域に出向いた積極的な支援、ボランティア育成、自主グループ等の支援、育児相談、情報提供のための子育てコンシェルジュ等の育成。

Q 地域子育て支援の課題とその対応は？

A ⇒ 地域によるばらつきが課題であり、ばらつき解消に向け、市内を6つのエリアに分け、地域内の保育施設や子育て支援について、サービスに偏りがないよう取り組み、さらに民間活力の積極的な活用を図りながら、「いつでも、誰もが、身近な場所で」子育て支援が受けられるよう充実を図る。



これまで、子どもの成長を行政の都合に合わせ、ライフステージごとに、ばらばらに支援・対応を行ってきました。今、子育て支援、小・中学校で課題となっていることの多くは、現在の社会情勢を背景に、こういった行政の支援や対応不足が解決を困難にしていると考えています。

そのために、小・中学校9年間を見通した教育が必要となり、地域における子育て支援がより必要となったため市立保育所が姿を変える…行政の効率ではなく、より子どもを中心に考え、子どもに寄り添ったものにならざるを得なくなった。そのような転換期ととらえるべきです。

「子どもに特別な配慮をそそがない社会は、やがて多大な負の影響を受ける」(保育検討協議会報告書より)ということをしかりと肝に銘じ、子どもの未来のために、保育課、子育て支援課、教育委員会が連携するとともに、「小・中連携」と「地域における子育て支援」の取り組みを加速させていきたいと思います。そのようお願いいたします。(一般質問抜粋)